

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年10月8日

【評価実施概要】

事業所番号	0972300560		
法人名	医療法人木水会		
事業所名	グループホーム八州苑B館		
所在地	栃木県下都賀郡藤岡町太田1395 (電話) 0282-61-1151		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成20年9月19日	評価確定日	平成20年10月8日

【情報提供票より】(平成20年8月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	7 人 7 人	常勤6人, 非常勤1人, 常勤換算7人 常勤7人, 常勤換算7人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り 1階建ての1階部分
------	-------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	41,000円 ~43,000円	その他の経費(月額)	・理美容代—2,000円、・おむつ代—150円/1枚、 ・日用消耗品—150円/1日、・教養娯楽費—100円/1日、 ・光熱費—350円/1日、・電気代—50円/1日/1点		
敷金	無				
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	—		
食材料費	朝食	円	昼食	円	
	夕食	円	おやつ	円	
	または1日当たり		1,380 円		

(4) 利用者の概要(平成20年8月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	5 名	要介護2	3 名		
要介護3	5 名	要介護4	5 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 85.4 歳	最低	57 歳	最高	100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	小松原医院、石川歯科医院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>当ホームは幹線道路から少し入った森林を抜けた閑静な場所に位置している。法人は2町に渡り、医院の開業や老人保健施設・在宅介護支援センター・デイサービスセンター、居宅介護事業所など地域に根ざした多彩な事業を展開している。外観はコンクリート造りであるが、中は温かみがあり清潔感のある壁模様となっており、職員も皆明るい性格であり、入居者一人ひとりに対する言葉かけも丁寧に親しみを感じるものである。入居者のケアを忠実に優先する姿勢が全職員にあり、毎日のレクリエーションを基本として、月に1回ぐらい外食やドライブに出掛けたり、近所の農園に日常的に出かけたりと、一人ひとりのペースに合わせて活動を促している。入居者個々の把握については、担当制を取り入れ、一人ひとりに対してセンター方式でのアセスメントを活用している。運営推進会議も積極的に行われるようになり、地域や町全体との関わりを大切にしているホームである。法人としては、各施設等との横の繋がりが円滑であり、チャイルドホームの設置により、職員への配慮も十分なされている。</p>

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>センター方式のアセスメントを軌道にのせ、全職員で取り組み、運営推進会議も開催される等定例会で意見を出し合い具体的な改善に取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価も全職員が取り組み、ホーム長と管理者がまとめ、最終的に管理者が記入した。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>今年3月から2ヶ月に1回の頻度で開催されるようになり、ホームの状況報告や自由な情報共有の場となっている。参加者の職種等の拡大も検討されており、ホームをより広く理解してもらえるような検討がなされている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族が訪れた際に出される要望に対しては、伝達帳を通して職員に周知を図っている。また、積極的に意向を話してもらえるような配慮もしている。そのために気軽に立ち寄り、気軽に話しかけられるような雰囲気づくりも行われている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の夏祭りではホームまで神輿やお囃子が回ってくれ、小学校から運動会の招待も受けている。また、法人全体の行事には地域の方を招待して、自然に地域と連携できるような工夫がなされている。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「入居者の人間性を重視し、居心地のよい生活を営むよう支援し、家庭的な雰囲気の中で生活することにより、安心と喜びそして自信が持てるよう支援し、落ち着いた環境の提供と地域での社会参加を積極的に支援します」という5つの理念と、「ゆっくり・たのしく・いっしょに」の行動指針をつくっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入居者一人ひとりの思いを大切にし、コミュニケーションを多くとり、その人らしさの把握に努め、ゆっくり・のんびり話しかけるよう支援している。理念を朝・夕の申し送り時や、ミーティング時に唱和し、職員間で共有化を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の夏祭りではホームまで神輿やお囃子が回ってくれ、小学校から運動会のお誘いがあり参加している。法人の納涼祭や運動会・行事等に地域の人たちの参加もある。法人として自治会に加入し、交通安全の旗持ちなどを職員が行っている。住宅地ではないため、住宅はまばらで地域の人が訪ねてくるのは数日に1回程度である。	○	運営推進会議が軌道にのり、地域の民生委員の参加もあり、入居者の知り合いの方（近所に住んでいた方）が訪ねてくれたり、野菜やお米の差し入れなどもあり、地域とのつきあいも増えてきている。地域や法人の行事・活動を通して、更に交流を深め、支え合う関係を構築していくことに期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価も全ての職員一人ひとりが取り組み、B館はホーム長が、C館は管理者が目を通してまとめ、最終的に管理者がまとめあげた。センター方式のアセスメントを軌道にのせ、運営推進会議を開催するなど、定例会で意見を出し合い、具体的な改善に取り組んでいる。		

グループホーム八州苑B館

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年の3月から2ヶ月ごとに開催している。メンバーは、入居者・民生委員・地域包括支援センター職員・管理者・ホーム長である。開催まもないことから、ホームの現状報告をしたり、フリートークで情報交換し、関係づくりに努めている。今後、議題によってはメンバーの拡大も考えている。家族に呼びかけているが、平日であるため参加はない。	○	今後、外部評価の取り組みや結果を報告し、そこでの意見をサービスの向上に活かす予定である。議題を参加者に募ったり、地域の消防署や警察の職員などに参加してもらうことも考えているが、家族にも参加してもらえよう働きかけをしていくことにも期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者が中心となり、ホームの空き情報を伝えたり聞かれたりしている。管理者は、地域包括支援センターから委託され業務を行っていたことから、町職員とは馴染みの関係である。町からは、資料を提供してもらったりイベントを教してもらったりしている。運営推進会議の議事録を町に提出している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	担当制を取り入れており、職員は1~2名の入居者を受け持っている。家族が訪れた際に生活の近況と預かり金の状況を報告し、担当者は毎月手紙を書いて写真を同封し、2ヶ月に1回発行される法人の広報誌も送っている。手紙の下書きの段階で管理者が目を通している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が訪れた際に出される要望に対しては、伝達帳を通して職員に周知を図っている。管理者は、家族が気軽に何でも遠慮なく言える関係づくりを大切にしたいと考えている。意見箱はあるが意見等が寄せられたことはない。重要事項説明書に苦情受付の記載はあるが、外部者へ表せる記載はない。行事の後、行事に関するアンケートを年2~3回行っている。	○	管理者の思いである家族との関係を更に深め、運営に反映させられるよう、行事に関するアンケートのほかに、意見・不満・苦情などについて無記名でアンケートを実施してみたり、外部者に意見等を表せる仕組みを検討することにも期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内部の異動は年2回ぐらい実施し、人材に対しては管理者の意見を取り入れてもらっている。職員は年1回、異動の希望を書面で副理事長に提出している。退職や異動の最後の日にはホームでお別れ会を行い、花束やプレゼントを渡している。異動した職員の所に会いに行く入居者もいる。		

グループホーム八州苑B館

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体の内部研修が2ヶ月に1回開催されている。主に感染症など医療的な研修が多い。外部研修は出張扱いで参加でき、副理事長からの助言も踏まえて参加者を決めている。休日を利用して個人で参加する研修もある。外部研修の案内は法人の事務部門が把握し職員に伝達している。研修後はレポートを提出し、定例会で報告することもある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内で2番目に開設されたグループホームが法人内にあることから、他のホームからの研修や見学の依頼が多い。最近他市のホームから交流をしたいという話がでており、前向きに検討中である。県のグループホーム協会に入会しているが最近参加していない。	○	法人の組織が大きく内部で完結することが多く、外の施設に出かけて行くことが少ない。他を知ることで、当ホームの良さの発見や気づきが生まれる。同業者との交流の機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会・訪問を通してサービスの質の向上の取り組みに活かしていくことに期待したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には、本人・家族にホームを見学してもらい、他の利用者や職員の様子を見てもらっている。滞在は30分程度である。ショートステイの指定を受けているが、満床で利用はない。入居後馴染めるまでは担当職員ができるだけ関わるように配慮し、話し好きな入居者が話をしてくれることもある。	○	在宅からの入居が多いとのことだが、法人のデイサービスとの連携や空き具合によってはショートステイを利用したり、食事を一緒に摂ったり、滞在時間や回数の検討など、場の雰囲気に徐々に馴染めるような工夫を期待したい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	農業をしていた入居者が多く、ホームの畑で野菜の作り方を教えてもらったり、しもつかれ・白あえや、そば・うどんの打ち方や裁縫などを教えてもらっている。料理の話しから昔は薪でご飯を炊いていた話しに発展するなど昔話が盛りあがることもある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員の担当制を取り入れているが、全員で関わられるよう意識づけをしており、センター方式のアセスメントシートをすべて記入するよう試みている。その中から一人ひとりの思いや意向の把握に努めているが、本人よりも家族からの思いが多い。困難な場合は、会話を多くし、表情や言葉の強さなどから思いや希望を推察し、本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族・医師等と話し合い、職員間の情報交換や伝達帳を利用して情報の共有を図り、担当職員が計画の原案を作成し、ホーム長や管理者（ケアマネジャー）が最終的に作成している。介護計画の内容は一人ひとりの生活に視点を置いたものであり、定期的に評価・モニタリングが実施されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回見直しを行っている。勤務中にケアカンファレンスを一人につき30分ほど行い、家族の意見は訪問時に聞いたり書面でやり取りして反映させている。状況に変化が生じた場合は必要な関係者と話し合い、新たな計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家を見たい、施設に面会に行きたい、買い物をしたい等、入居者一人ひとりの要望に対して職員が支援している。法人の敷地内に当ホームを含めて3つのユニットがあり、必要な時に職員の応援や協力が得られる体制となっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族と相談のうえ法人の理事長である医師がかかりつけ医になっている方が多い。2週間に1回職員同伴で受診している。24時間対応・相談が可能であり、入院の必要が生じた場合は、入院先を紹介してくれる。歯科に関しては、訪問で対応してもらっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重要事項説明書に、重度化した場合や緊急時の対応が記載されており、看取りの指針・マニュアルが整理されている。食事が摂れなくなった段階で家族と相談し、かかりつけ医の紹介で入院した例もある。職員体制や、看取りの勉強など課題はあるが、希望に添った支援をしたいと考えている。	○	平成13年開設からの入居者もおり、加齢による心身の機能の低下が進み、年々重度化している。本人や家族の希望を早い段階から聞き取り、状態の変化に合わせた対応を検討したり、重度化・看取りに関して予測されることを勉強したり、職員の確保や家族に協力をお願いするなど、関係者全員で取り組み方針の共有を図っていくことに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は入居者一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重し、生活を送るうえでも言葉かけや対応に気を配って支援している。書類は事務所に保管され、外部からは見えない配置となっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者が日々をどのように過ごしたいか「～でいいですか?」とお伺い口調で問いかけ、自分で決めてもらうことを大切にしている。食事・入浴・起床など、一人ひとりのペースで支援している。かかりつけ医受診や、朝の血圧測定、トイレ誘導などは職員の都合で行うこともあると認識している。		

グループホーム八州苑B館

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物に一緒に行ったり、米とぎ、食器ふき、下ごしらえなどできる範囲で職員と一緒にやっている。職員のうち一人は同じ者を食べ、他の職員は弁当と一緒に食べている。介助を要する入居者はほとんどいないが、職員は状況を見ながら声をかけて支援している。おやつや行事の食事に関しては全員で食べられるよう工夫している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、入居者の希望に合わせて毎日13時30分～17時頃の間、職員1名の支援で入浴している。毎日入る方、1日おき、週1回の方もいる。家族に協力してもらいながら入浴したがない方の支援を徐々に深めていったこともある。入浴の順番にも配慮している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	できる方は居室の掃除機がけ、花の植え替え、草むしり、農作業、食器ふき、洗濯物たたみ等を行っている。月間の行事計画があり、脳トレ・入居者のワンマンショー・おやつづくり等があり、いま入居者に人気があるのは、職員手作りの絵カードによる神経衰弱とボーリングである。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎月の外食会やドライブ、天気の良い日の外での体操、散歩、買い物、農園の作物の育ち具合を見に行くことなど、戸外に出かける支援をしている。ホーム内は歩行が可能な方でも、長い距離は車椅子を利用する方もいる。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの周りは住宅がまばらであり、敷地内の前は車の往来があり、事故や不審者から守るため、入居者・家族の了解を得て施錠している。外出傾向のある時は、その言動から察知し、落ち着くまで行動を伴にしている。近くに機動隊の部隊があり、周辺にはパトカーの往来もある。		

グループホーム八州苑B館

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人全体で年6回、定期的に避難訓練を実施し、ホームでも実施している。防災責任者の職員の指導のもとで実施しているが、消防署との連携で通報訓練を実施することもある。災害に対して施設間で協力できる体制になっている。地域との連携はこれからと考えている。	○	法人全体の災害に対する体制を維持していくことをこれからも期待したい。更に、運営推進会議などを通して、ホームや法人として地域に対してできることなども踏まえて、地域の人々や消防団員からの協力が得られるよう、地域の方たちと一緒に訓練をすることなどにも期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士が献立を作成し、カロリーバランスを考えた食事になっている。水分も1日1.5リットル摂取するよう支援している。昼食にお茶のほかに牛乳が出されていた。毎食の食事量やその都度の水分摂取を記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の家具や物品などは家庭で使うものを使用し、季節の花を生けたり、入居者の写真や、副理事長の作品である季節の花の写真を飾ったりしている。居室のドアは色で区別し、花の名前で分けている。居室の向きはいろいろで、朝日や西日などの光への配慮をしている。自然換気に心がけ、トイレ使用の後は消臭スプレーを使っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使い慣れていたタンスや三面鏡、ベッドや食器などを持ちこんでいる。洗濯物を干すものやハンガーがほとんどの方の所にあった。クローゼット・エアコン・洗面台はホームで用意したものである。琴を持参している方もいる。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。